

シリアでの流血

2011年4月24日 アシェル・イントレーター

この週末、シリアの治安部隊はデモ行進を行う群衆に向かって発砲し 120 名が犠牲となり、今月犠牲になったデモ隊の人々の数は合計 300 名となりました。

シリア大統領バシャル・アサドは長年に渡りイランのアフマディネジャド大統領やレバノンのヒズボラと手を組んできました。それは「悪の枢軸」と呼ばれてきたものです。シリアは戦略的にイランとレバノンの間に位置するため、彼の政権はイランからの武器提供とテロ活動を中東全域へ橋渡しをしてきました。

イスラエルの他に、中東の政府で民主主義の価値観、ましてやユダヤ-クリスチアンの倫理観を持つ政府は存在しません。その他すべてはイスラム教独裁政府です。今年それらの諸国で民衆蜂起がひんぱんに見られました。それに対する独裁政府の反撃は流血を伴うものでした。

民衆蜂起は人々が自由を求めることが動機でした。しかしその願いはイスラム教過激派によって悪用され、彼らは多くの場合独裁者よりもさらに危険を孕んでいます。現在の政権が倒れると、さらなる流血とさらに過激なイスラム政権が立つこととなります。

イスラム教世界の中には二つの主流派があります。すなわちイランによって代表されるシーア派、とサウジアラビアによって代表されるスンニ派です。両宗派にはそれぞれ過激派がいます。アルカイダ、イスラム兄弟団、そしてアル・ワハビはスンニ派であり、アフマディネジャド大統領、ヒズボラそしてハマスはシーア派です。何人かの解説者は、もしアサド政権が倒れると、イスラム兄弟団によって運営されているスンニ派同盟が取って代わることになるだろうと予測しています。それゆえ、イランはアサド大統領を支援し続けているのです。

イスラエルに対する憎しみはイスラム教徒の間を、それがスンニ派またはシーア派であっても一致させる要素です。どちらの結果が良いのかと問われると、答えはどちらもよくないのです。この騒乱の間、両サイトとも大衆からの支持をめぐって争うためにイスラエルに対する言辞を激化させています。その一方で、分派が互いに戦っている間、彼らはイスラエルに対する攻撃を行うために武力を集結させることができません。(どうかルカ 11:17 にあるように彼らの分裂が起こりますようにお祈り下さい。)

国際外交の共同体が継続してイスラエルに譲歩するようプレッシャーをかける際、ネタニヤフ首相の政権は当を得た意見を述べました。すなわち、さらなるイスラムの蜂起が条約の条項を無効化してしまう可能性があるため、現在の状況下において結ばれた同意は有効にはならないであろうと。

第三次インティファダか

パレスチナ人の間でハマスとイスラム聖戦に関わるある特定のグループはイスラエルに対する、5月15日から始まる第三次インティファダを呼びかけています。そのフェイスブックのページには、300,000 クリックが「いいね」を選んでいました。リーダーの一人であるムハマド・ハティブの言葉が引用され、「このインティファダを起こすよう促す団体があるが、パレスチナ当局はそれに興味を示していない。ここ数ヶ月が重要な時期となるだろう。」と述べました。

ハティブはまた、インティファダは恐らく9月より前には起こらないだろうと思うと述べています。インティファダを促している者はエジプトやリビアで起こった蜂起から着想を得たのです。パレスチナのアップース大統領とファヤッド首相は両方ともいかなる暴力的な蜂起に反対すると述べました。

過越の祭りのセダー(食事)

イスラエル全土で、メシアニック信者は家族や親類縁者と共に、あるいはCongregationでの過越の祭りのセダー(食事)に参加しました。私たちの共同体も多くのセダーを主催しました。最も成功したものの一つはイダン・Pとアヴィハイ・Oが主催した、大きなベドウィンのテントで120名を超える出席者があったものでした。

神は十字架と復活のための聖書的な設定として過越の祭りを昔から決めておられました。正統派ユダヤ人はこのつながりを拒絶しますが、メシアニックジューは祭りの歴史的な文脈をイスラエル社会に認識させようとしています。今週、あるテレビ番組で宗教派ではない学者が過越の祭りに関するユダヤ教とキリスト教の論争について語りました。

<http://www.iba.org.il/?autoStartOnFirstElement=true&defaultSearchTerm=7199441&filterType=CM>

伝統的なセダーの文書はタルムードのミシュナー「ペサヒーム」にあります。この小冊子が体系化されたのは3世紀初頭で、新約聖書が書かれた150年ほど後です。福音書の中に過越の祭りのセダーのほとんどの要素が記録されています。すなわち、福音書こそ伝統的なセダーの元となるユダヤの文学的原本として取り扱われるべきなのです。

過越の祭りとイエシュアとの間に多くのつながりがありますが、3つの聖書的な要素が私の心を捉えています。

1. **イエホヴァの天使** – 出エジプト 3、14、24 章と過越の祭りの物語全体において、イエホヴァの天使が現れます。この天使は神からの使者ですが、神ご自身であるかのように一人称で語ります。彼はエロヒムとイエホヴァ両方であるとされます。彼の神性ゆえに彼は普通の天使とは言えないのです。彼は御父である神ではありません。彼は神から遣わされたからです。メシアであるイエシュアの二重の特性がこの特別な天使において見ることができます。
2. **犠牲の小羊** – 出エジプト 12 章で人々は小羊をほふって過越の食事として食べるよう指示されました。血は十字架の形に、扉のかもと門柱に塗られました。人々はこの血によって贖われ、解放されました。これは魔法ではなく、聖書的なシンボルなのです。小羊の血の意味とは何か。それは私たちのために犠牲となられたメシアなのです。木の柱に塗られた主の血によって、私たちに救いが与えられるのです。
3. **仲介者モーセ** – 出エジプト 19、24、32 章とトーラー全体を通して、モーセは神と民との仲介者として描かれています。彼は山に登り神の元へ行き、山を下って民の元に降りてきました。彼は契約を結び、血をふりかけ、贖いを行い、戒めを与え、神の代わりに裁きました。モーセは神と人との仲介する来るべきメシアの像なのです(1 テモテ 2:5、申命記 18:15)。

復活祭の日

何百人のアラブ・クリスチャンとメシアニックジューが土曜日の夕方東エルサレムにある「園の墓(注)」の「イエシュアの空の墓」の前に集まりました。私たちの目的は、復活を神に感謝し、イスラエル人とパレスチナ人との間の平和をイエシュアを通して成される希望を体現することです。礼拝は主にアラビア語で導かれました。ヘブライ語とユダヤ側では、ハイム・W がいくつかの賛美を導き、ユヴァル・Y が短いメッセージを行いました。両方ともとても油注ぎがありました。神に栄光がありますように！

注:「園の墓」—現在のエルサレム旧市街の北側、ダマスカス門から少し北側にあるクリスチャンによって管理されている公園のこと。古代の墓が残っている遺跡で、1883 年、イギリスのゴードン将軍が発見し、その後公園として整備されたもの。ドクロの顔のような自然の崖があり、その横に古代の墓の穴がいくつも残っている。プロテスタント信者はここで集まって賛美集会を行い、また公園にお願いすれば、正餐式も行うことができる。考古学的にここが実際に「キリストの墓」であったのかは議論があり、通説としては、旧市街の中にある「聖墳墓教会」がその場所であろうと思われる。ただし、聖墳墓教会は古代の旧市街の西側にあり、ユダヤ教の伝統では街の西側に墓を作ってはならないという掟があったため、キリストの墓がどこであったのかは今だ結論が出ていない。Wikipedia: Garden Tomb / Church of the Holy Sepulchre (参考)